

「かるた」と「坊主めくり」

わからないから、偶然だから、おもしろいけどなあ

特定非営利活動法人 ゆめ

竹上 道邦（元 特別支援学級担任）

「かるたとり」と「坊主めくり」の違いは、いったい何なんだろう？

3年生から入級してきたNくんは、なかなかみんなと一緒に遊ぶことができません。

授業中も、「なんで僕を一番にしてくれないのか！」と大暴れをしたり、かるたとりでは、「自分が取れない」とかるたを全部ひっくり返したりして、メチャクチャに・・・



授業が途中で中断してしまうこともあります。

何回かそんなことがあってから、Nくんは遊びの輪に入って来なくなりました。

「どうせ負けるから」「みんなに怒られる」「もういい」と、周りでウロウロ、ジャマをして・・・

評価に過敏で、自己評価が低いNくん。行動は、自分をみとめてほしい、いいところを見せたいという思いの表れなのかなと思います。

なんとか、みんなと楽しい遊びの世界を！

ある日、私は、坊主めくり遊びに誘いました。はじめは、先生と2人からです。

「侍」はセーフ。「坊主」が出たら手札を全部出す。「姫」が出たら場の札を全部もらえます。

「また坊主や！」「姫、来てほしいな」「やった姫や」「全部もらうで」「運が、よかったなあ」

「先生、運がわるいなあ」「運だよ、運」「運がわるい時もある」

先生となら、坊主めくりなら、何とか楽しく遊ぶことができました。

他の子に負けてしまう、いいところが見せられないかるた。負けることもあるけど、自分も大逆転で勝ることができる坊主めくりなら、受け入れることができたのかなと思います。

小さいころから、うまくいかない、わかってもらえない経験が多く、いいところがみせられなくて不安を抱えている子どもたち。失敗の経験は自己評価を低くし、自己否定につながっていきます。

わることもあるけど、いいこともある。

うまくいかないこともあるけど、それもいいじゃないか。

先生も失敗だらけ。「失敗は成功の元」

何が起こるかわからない、偶然だから、おもしろいけどなあ。

子ども同士で遊ぶこと、人とかがかわることが苦手で、放課後デイに来ても、パソコン室にこもってしまうYくん。「トランプゲームしよう」と誘っても、「いやだ」となかなか輪に入ってきません。

「勝負してよ。お願い」

「先生、弱いもん。しない」

「今日は、絶対勝ってやるぞ」

「しゃあないな やってやろうかな」

この頃、帰り際に、先生と勝負してくれるようになりました。

子どもの心、遊びも難しいもんですね。

